

実践のまとめ（3学年 社会科）

燕市立燕中学校 教諭 山本 晴久

1 研究テーマ

**社会的事象を「自分事」と捉え、多面的・多角的に考え、表現できる生徒の育成
～身近な地域教材の活用を通して～**

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

中学校学習指導要領（平成29年度告示）社会編〔公民的分野〕の目標では、柱書で「現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動をとおして、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成する」とされ、（2）で、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の生活と関連づけて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断する力、思考・判断したことを説明したり、それらを元に議論したりする力を養う」と述べられている。この目標を実現するためには、社会的事象を生徒が自分事と捉え、課題を主体的に追究したり、解決したりする活動が必要である。しかし、これまでの私の授業を振り返ると、興味・関心を高め、一定の知識・理解を定着させることはできていたものの、その学習内容が自分とはかけ離れたもの、自分とは関係ない他人事として捉えている生徒が多くいたのではないかと感じている。

そこで身近な地域教材を活用し、生徒にとって切実な学習課題を設定することで、社会的事象を「自分事」として捉え、主体的に追究したり、解決したりしようとする生徒を育成したいと考え、本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 身近な地域教材の活用

身近な地域教材として、地元燕市の課題を取り上げることで、より切実な問題意識をもって課題解決に取り組むことができるようにする。

② より深めていくための手立て

生徒が課題を解決していく際に、社会的な見方・考え方を明確に示し、考えを広げたり、深めたりできるようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 燕市への提案内容について、多面的・多角的に表現できている生徒の数が60%以上いる。

② 単元終了後のアンケートから評価を行う。

「燕市が行っているさまざまな取組は、あなたの生活と関係があると思うか。」の項目で肯定的な評価（そう思う、どちらかといえばそう思う）をした生徒が80%以上いる。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

公民的分野「地方自治と私たち」（『新しい社会 公民』東京書籍）

(2) 単元の目標

- ・地方自治の基本的な考え方や、地方自治体による政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。
- ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治体が果たしている役割や地方財政のあり方などについて、多面的・多角的に考察、表現する。
- ・地方自治体で行われている実際の政治について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。
- ・身近な地方公共団体の政治と地方住民の権利や義務を関連付けて捉え、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育む。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地方自治の基本的な考え方や首長と議会の二つの機関を中心に行われる地方自治体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治体が果たしている役割や地方財政のあり方などについて、多面的・多角的に考察、表現している。	地方自治体で行われている実際の政治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全6時間、本時1／6時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
単元を貫く課題：燕市をさらによりよくするための提案を考え、伝えよう！			
1 (1) 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・燕市の魅力を考える。 ・単元を貫く課題の設定。 ・課題を解決するためにどのような情報が必要か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎燕市の魅力は何だろう。 ◎「単元を貫く課題」に対する、現時点での自分の考えを書こう。 	主体的に学習に取り組む態度 総合的な学習の時間での学びや生活体験をもとに学習課題について自分の考えを具体的に表現し、他者の意見を聞いて新たな気づきを記入している。 【ワークシートの記述、観察】
2 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の制度 	<ul style="list-style-type: none"> ◎地方自治の仕組みを理解しよう。 	知識・技能 地方自治体の役割について理解している。 【ワークシートの記述】

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方自治体の仕組みと仕事 ・ 燕市の現状と課題 	<p>◎燕市はどのように仕事をしているのだろう。</p> <p>◎燕市にはどのような課題があるのか考えよう。</p>	<p>知識・技能 地方自治の仕組みや地方自治に住民が関わる方法について理解している。 【ワークシートの記述】</p> <p>知識・技能 燕市の現状と課題について理解している。 【ワークシートの記述】</p>
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自、必要な情報を調べ、よりよい提案を考える。 ・ 班ごとに社会的な見方・考え方を踏まえてそれぞれの提案を検討する。 ・ 各自で提案内容を再度、考える。 	<p>◎自分の提案を発表し、よりよいものにしよう。</p> <p>◎もう一度、燕市をよりよいまちにするための提案を考えよう。</p>	<p>思考・判断・表現 社会的な見方や考え方を踏まえて、提案を考えている。 【ワークシートの記述】</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 燕市をよりよくしようと、主体的に話し合い活動に参加している。 【授業中の見取り】</p>
4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元を貫く学習課題に対する考えを自分の言葉でまとめる。 	<p>◎燕市をよりよいまちにするための提案を発表しよう。</p>	<p>思考・判断・表現 よりよい燕市にするための提案を多面的・多角的に考え、表現している。 【ワークシートの記述】</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 第1次に立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見出している。 【ワークシートの記述】</p>

4 単元と生徒

(1) 単元について

中学校学習指導要領では、「身近な地方公共団体の政治について取り上げるとともに、住民の権利や義務に関連付けて扱うことにより、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育成することが大切である。」と書かれている。そのため、生徒に切実感を抱かせて主体的に課題を考えられるよう、地元の地方自治体を取り上げ、自分の住む地域の抱える課題や魅力に気づけるよう授業を行なっていく。地域の課題や魅力を踏まえ、どのようなことを行えばよりよいまちになるか、自分事として、主体的に考え続ける姿を期待する。

(2) 生徒の実態

落ち着いて学習に取り組むことができている。しかし、課題に対して、自分から意欲的に考えるというよりは、取り組まなければならないことだから考える、という意識の生徒が多い。

また、今年度、生徒対象に実施した地方自治に関するアンケートの結果は表1の通りであり、「自分の参加により、地域の課題が少し変えられるかもしれないと思うか」、「将来の地域の担い手として、積極的に社会参画していきたいと思うか」という質問項目については、肯定的な回答をしている生徒が多数いることが分かる。しかし、一方で「燕市が行っているさまざまな取組は、あなたの生活と関係があると思うか。」という質問項目については、否定的な回答をしている生徒が6割以上にのぼっている。このことから、多くの生徒が、社会参画意識はもっているけれども、燕市の取組にはどのようなものがあり、どのように自分の生活と関わっているのかについて理解できていないという現状がうかがえる。

本単元では、自分が住む燕市をよりよくするための提案を多面的・多角的に考え、表現することを通して、燕市の果たしている役割と課題を認識し、生徒の社会参画意識をさらに高めていきたい。

表1 地方自治に関するアンケートの結果（実施日：2023年10月23日 n=27）

質問項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	思わない
燕市が行っているさまざまな取組は、あなたの生活と関係があると思うか。	14.8% (4人)	22.2% (6人)	59.3% (16人)	3.7% (1人)
自分の参加により、地域の課題が少し変えられるかもしれないと思うか。	11.1% (3人)	70.4% (19人)	14.8% (4人)	3.7% (1人)
将来の地域の担い手として、積極的に社会参画をしていきたいと思うか。	7.4% (2人)	63% (17人)	22.2% (6人)	7.4% (2人)

5 本時の展開（令和5年11月2日実施）

(1) ねらい

総合的な学習の時間での学びや生活体験をもとに、燕市の魅力や課題について自分の考えを具体的に表現し、他者の意見を聞いて新たな気付きを記入したり、課題の解決に役立ちそうな情報を挙げたりすることなどを通して、単元を貫く課題「燕市をさらによりよくするための提案を考え、伝えよう！」について、解決への見通しを立てる。

(2) 展開の構想

総合的な学習の時間を通して、燕市の宮町商店街の人との交流をしてきている。その中で、お店の人たちが抱えている課題に対して、生徒たちが中学生の視点でどうしたらよいか考え、提案してきた。その経験を生かし、「商店街」から「燕市」へと視野を広げ、どうしたら燕市が、よりよいまちになるかを仲間と協働して考えさせたい。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	T：教師の働きかけ S：予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 (5分) <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">全体</div>	<ul style="list-style-type: none"> 燕市を住みやすいまちと肯定的に捉えている燕市民がとて多いことを理解する。 	T：このマークを知っていますか？ S：燕市のマーク。 T：そうです。これは、燕市の市章です。燕市の「つ」を組み込み、さわやかに飛び交うつばめをイメージ化されたものです。 T：今日からは燕市について考えていきます。さて、以前に燕市についてのアンケートをみなさんに取らせてもらいました。「将来燕市に住みたいと思いますか。」何%ぐらいの人が住みたいと答えたのでしょうか。 S：50%くらい？ T：正解は、6.9%です。（2人） S：少ない！ T：では、みんなの中では、住みにくいと感じている人が多かったですが、燕市民はどのように感じているか。データを見せます。 S：えー、（燕市は住みやすいと感じている人が）多い。	◇電子黒板で示す。
展開① (15分) <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">班</div> → <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">全体</div>	<ul style="list-style-type: none"> 燕市の魅力を班で考える。 他の班や燕市民が魅力だと感じていることを知る。 	T：そうですね。みんなが思っている以上に、燕市民は燕市に魅力を感じているようですね。では、みんなで燕市の魅力について、何があるか、班で話し合ってみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">燕市の魅力って何だろう。</div> S：米がうまい。洋食器が有名。自然が多い。工業が盛ん。電車、高速道路、新幹線など、多方面へのアクセスがよい。学校環境がよくなってきている。 T：では、時間になったので、いくつかの班に発表してもらいます。 ○班お願いします。 S：私たちの班では、～。 S：私たちの班では、～。	○班長を中心に、話し合いがスムーズに行くように、助言を行う。また、同じような考えは、同じまとまりとして、書くように指導する。 ◇班ごとに、ある程度考えがまとまったら、個人のワークシートに記入させる。 ◇発表するのは、2つの班程度におさめる。他班の発表から、「確かにそうだな」と思った考えを自

		<p>T：ありがとうございました。たくさん出てきたね。では、実際に燕市民のアンケートから、どんなところを市民は魅力と感じているか見てみよう。</p> <p>S：自分たちと同じような考えがある。そんな考えもあるんだ。たくさんあるんだな。燕市はいいところだ。</p>	<p>分のワークシートに記入させる。</p> <p>◇全面のホワイトボードに右側に掲示する。</p> <p>◇「確かにそうだな」と思った考えを自分のワークシートに記入させる。</p>
<p>展開③ (5分)</p> <p>全体</p>	<p>・燕市には課題があることを知る。</p>	<p>T：つまり、燕市ってたくさんの魅力があり、燕市の人々は、燕市を肯定的に捉えている人が多いね。いいところだよ。でもね、みんなが魅力的に感じている燕市だけ、この先、こんな未来が待っているかもしれない。</p> <p>T：どんなことが起きていた？</p> <p>S：イオンシネマがなくなった。学校が統廃合されていった。後継者が不足で企業が倒産した。</p> <p>T：何でこんなに魅力があるまちなのに、こんなことになってしまうのか。</p> <p>S：人口が減ってしまう。少子化が進む。など</p>	<p>◇青年会議所作成の「合併しなかった未来」の動画を視聴する。</p>
<p>展開④ (5分)</p> <p>全体</p>	<p>・単元を貫く課題を設定する。</p>	<p>◎宮町商店街の呉服店の店主さんの言葉を紹介する。</p> <p>T：総合の時間で、宮町商店街のお店の困っていることを解決しようとみんな考えてきましたね。今度は、宮町商店街から範囲を広げて、燕市を<u>さらに</u>よりよい町にするためにはどうしたらいいか、考えていこう。</p> <p>◎燕市が目標としている姿（日本一輝いているまち）を伝える。</p>	<p>◇店主さんの言葉「みんなも進学で市外や県外に行くことがあるかもしれないが、また燕市に戻ってきてほしいな。どうしたら燕市はみんなが戻ってくる住みやすいまちになるかな。」を電子黒板で示す。</p>
<p>単元を貫く課題：燕市をさらによりよくするための提案を考え、伝えよう！</p>			
<p>展開⑤ (15分)</p> <p>個人 →班</p>	<p>・燕市をさらによりよいまちにするための提案を考える。</p>	<p>T：それでは提案を、次の2つの視点から考えよう。</p> <p>① 今よりも住みやすく。</p> <p>② 他市町村の人が訪れたい。</p> <p>T：班のメンバーに自分の提案を伝えて、</p>	<p>◇市に提案することを伝える。</p> <p>◇よりよいまちづくりのためには、魅力を活かしてよいところをさらに伸ばすことや課題を解決して</p>

		<p>アドバイスをもらおう。</p> <p>◇課題が見出せない生徒には、燕中学校の3年生が課題だと思っていることを資料として配布し、参考にさせる。</p> <p>また、今学習しているこの教室も、燕市が「教育」に力を入れ、STEAM教育を進めていこうとしていることを紹介する。</p>	<p>いくことが大切であると補足する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>総合的な学習の時間での学びや生活体験をもとに学習課題について自分の考えを具体的に表現し、他者の意見を聞いて新たな気づきを記入している。</p> <p>【ワークシートの記述】</p>
<p>展開⑥ (2分)</p> <p>全体</p>	<p>・よりよい提案をするためにはどんな情報が必要かを考える。</p>	<p>T: 今それぞれが書いた提案を、市の方に納得してもらえ、よりよい提案にするためには、どんな情報が必要かな。</p> <p>S: 燕市の現状をもっと詳しく知る必要がある。</p> <p>S: 市民はどんなことを課題だと感じているか。</p> <p>S: そもそも燕市はどんな仕事をしているか。</p> <p>T: 自分たちの考えをより自信をもって提案するために、これから、燕市を通して、地方自治の仕組みや制度、課題を学んでいこう。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>課題の解決に役立ちそうな情報を挙げている。</p> <p>【観察】</p>
<p>まとめ (3分)</p>	<p>・ふりかえりを行う。</p>		

(4) 評価

総合的な学習の時間での学びや生活体験をもとに、学習課題について自分の考えを具体的に表現し、他者の意見を聞いて新たな気づきを記入している。(主体的に学習に取り組む態度)

A (十分に満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
<p>単元を貫く課題に対して、自分なりに燕市の課題を捉え、他者の意見を参考にして、その解決策を考えている。</p>	<p>単元を貫く課題に対して、自分なりに燕市の課題を捉え、その解決策を考えている。</p>	<p>Bに満たない。</p>

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（テーマに迫る手立てから）

① 身近な教材の活用

1時間目（本時）で、燕市の住みやすさに対する、市民アンケートの結果と生徒アンケートの結果を比較した。市民の約90%が肯定的な意見をもっていることを知り、燕市の魅力について、班で話し合った。一方で、これから燕市は人口が減少し、産業の衰退など多くの課題があることを紹介した。人口が減少しないように、燕市民がより住みやすいように、また他の地域から燕市に住みたいと思う人が増えるように、「燕市をさらによりよくするための提案を考え、伝えよう！」という単元を貫く問いを設定し、各自で課題とそれに対する提案を考えた。以下は、授業後の振り返りである。

〈生徒A〉

・私は、将来燕市に住み続けたいとは思っていませんでしたが、燕市の良いところなどを考えてみると、気づいていなかっただけで、たくさんあるとわかりました。でも要望もたくさんあると分かったので、これから、今日気づいた燕市の良いところを生かして、燕市をよりよくするための提案を考えていきたいです。

〈生徒B〉

・燕市の抱えるいろいろな課題に対して、中学生の視点から解決策を考えて、提案していきたい。

生徒Aは事前のアンケートで将来燕市を出たい、燕市は好きではないと答えていた生徒だが、1時間目の授業を通して、自分たちが住んでいる地域の良さを見直し、その良さを活かしながら、住みやすいまちにしたいと述べており、変容が見られた。

② より深めていくための手立て

第3次の2時間目で、各自が考えた提案内容を班で話し合った。提案を話し合う上で、3つの見方・考え方「公正（一人一人を尊重し、不当にあつかわない。）」「効率（より少ない資源でより大きな成果を得る。）」「具体性・実現性」をもたせ、班で意見交流をした。振り返りを見ると、住みやすいまちにするためには、自分の思いだけでなく、様々な人の立場や側面から考える必要があることを理解したことが分かる。すべての生徒が燕市をよりよくするために、どのようにしたらよいかを考え、表現することができていた。

〈生徒A〉

・若い人たちばかりに注目するのではなく、お年寄りにも利益があるような提案にするべきだと気付きました。若い人を燕市に呼び込んだり、燕市から離れていかないようにするために、中学生の私目線で、提案を考えていましたが、幅広い年齢層の人が好きな燕市であるような取組をこれから考えたいです。

〈生徒B〉

・今日の話し合いを通して、いろいろな視点から見て利益や不利益を考え、いろいろな面からよりよいアイデアを出し、自分たちの町をよりよいものにできるのだと思った。また、今回の話し合いで新しい課題や見直す点が見つかったので、改善できるようにして、取り組んでいきたい。

(2) 研究テーマに関わる評価

評価項目	28人中
① 燕市への提案内容について、多面的・多角的に表現できている生徒の数が60%以上。	16人 (57%)
② 単元終了後のアンケートから評価を行う(実施日:2023年12月4日 n=28) 「燕市が行っているさまざまな取組は、あなたの生活と関係があると思うか。」の項目で肯定的な評価(そう思う、どちらかといえばそう思う)をした生徒が80%以上	26人 (92%)

①については、16人の生徒が、多面的・多角的に表現できていた。各自が初めに考えた提案を班で話し合う際に、現代社会の見方・考え方を提示したことで、自分が気付かなかった視点を得て、自分の考えを再構築することができたと考えられる。生徒AとBが考えた提案は以下である。

〈生徒A〉

・私は燕市が、より若者が住んでいて楽しいと思える場所になってほしいと考えます。そこで、人気のスイーツ店などの商品を商店街で販売することを提案します。ツバメルシェでスイーツグランプリなどのイベントをやっていると思うのですが、そこで一番お気に入りのお店を市民のみなさんに選んで投票してもらって一位となったお店に期間を決めて商店街の中の閉店してしまった店舗の場所で営業してもらおうという内容です。私は総合の学習の時間に宮町商店街を訪問し、もっとにぎわいをもたせるにはどうすればよいか考えました。実際に商店街に行ってみたところ、シャッターが閉まっている店が結構あり、さみしい雰囲気を感じました。なので、市民の声で人気が高いお店を商店街に設置することで商店街がにぎわい、若者も増えると思います。スイーツだけでなく、ラーメンやお惣菜などいろいろなもので行えば幅広い年齢層のお客さんで更ににぎわうようになると思いますし、遠出しなくても市内で人気店の料理が食べられるようになれば燕市民が喜ぶのはもちろん、近場の市外からもたくさん人が足を運ぶようになるのかなと思いました。

〈生徒B〉

・私は燕市がより安全で安心して過ごすことができるまちになってほしいと思います。そこで歩道に街灯の設置をお願いします。私が下校時に利用している道は、街灯がほとんど無い道や設置してある街灯が暗く、道の見通しが悪いところがたくさんあります。例えば、燕中学校から三宝亭までの細い道は住宅がたくさんあるため、車通りも通勤・通学の時間は多くなってしまい、建物の高さによってとても見通しが悪く、夜は暗くてカーブミラーがほとんど見えず危険だと思いました。はじめに私は、暗い道に明るい街灯をもっと設置する案を考えました。しかし、住宅街の中なので街灯が明るすぎると「まぶしすぎて撤去してほしい」という意見も出てしまうと思います。そこで、高さが低い街灯を設置することで、安全に道を使えるだけでなく、近所の方も納得できると思います。

②については、単元前のアンケート結果の37%から92%に大幅に増えており、自分が住む燕市をよりよくするための提案を多面的・多角的に考え、表現することを通して、燕市の果たしている役割と課題を認識し、自分事として捉えることができたと考えられる。今後、この経験が、地域を支える住民の一人として自分にできることを考え行動することにつながることを期待する。

(3) 今後の課題

① 授業の展開に関わること

本時で燕市の住みやすさに関する市民対象のアンケートと生徒対象のアンケートの結果を示した場面において、結果の大きなズレを見出せたにもかかわらず、それを有効に生かすことができなかった。今回は数値の差に驚いた後、燕市の魅力を考える活動を行ったが、それよりもむしろ、なぜ市民は住みやすいと考え、生徒たちは住みやすいと考えなかったのか、それぞれの理由をしっかりと比較・検討する活動を行い、そこから次の展開をデザインすべきだったのではないかと考えた。また、時間を気にして急いでしまったために、生徒たちの気持ちがそろうことなく、一方的に課題を提示してしまったことも問題であった。事前に授業の流れを考える際に、生徒の思考の流れを十分に考え、授業を構想する必要がある。

② 自分事として考えるための課題をどのように設定するか。

本時で生徒に燕市の課題を考えさせたところ、個人的な要望に留まるものが少なくなかった。これは自分の生活体験から考えさせたことが大きな要因であると思うが、個人的な要望ではなく、社会全体の課題を見出すことができるような手立てが必要であった。例えば、①で指摘した、市民対象のアンケートと生徒対象のアンケートの結果を比較・検討する活動を行うことで、より大きな視点で課題を見出すことが可能だったのではないかと考えられる。自分の課題を自分事として追究するのではなく、社会の課題を自分事として追究することができるように、今後指導を工夫したい。

また、今回は燕市への提案をそれぞれが考えるところで終わったが、実際に燕市に提案をプレゼンし、アドバイスをいただけるような活動に今後チャレンジしたいと考えている。

7 参考文献

- ・ 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』2018
- ・ 燕市企画財政部企画財政課『令和4年度これからのまちづくりのための市民意識調査報告書』2022
<https://www.city.tsubame.niigata.jp/material/files/group/5/2022shiminishikichosa.pdf>
(参照2024-01-15)
- ・ 燕市企画財政部企画財政課『第3次燕市総合計画』2023.
https://www.city.tsubame.niigata.jp/material/files/group/5/dai3jitsubameshisougoikeiku_a4page.pdf (参照2024-01-15)
- ・ 一般社団法人燕三条青年会議所夢あるまち推進委員会『燕三条の未来 ワクワクガイド 2018-2040』2018.
https://tsubamesanjo-jc.or.jp/wp-content/uploads/2019/06/tscity_wakuwaku.pdf
(参照2024-01-15)